

JAMの主張

総選挙は参院選の前哨戦

「JAM代表・村田きょうこ」必勝へとつなげよう！

【機関紙JAM・2021年9月25日発行 第272号】

今、政局は風雲急を告げています。菅首相は9月3日の自民党臨時役員会で、出馬の意欲を示していた党総裁選に、一転して立候補しないことを表明しました。

菅政権は、7年8ヵ月の最長政権を築いた安倍晋三氏の後を引き継ぎ、昨年、9月16日に発足。内閣支持率は、歴代でも非常に高い水準（NHK62%、日経74%、朝日65%）での船出となりました。当初は「コロナ対策と経済の両立」を掲げたものの、その後、コロナ対策は後手後手に回り、緊急事態宣言を繰り返すこととなります。

東京五輪も無観客開催を強いられ、観光や飲食店を中心に経済の苦境が続き、政権の低迷に歯止めがかかりませんでした。菅首相はこれらのことで国民の信を失い、内閣支持率もこの一年で大きく低下（NHK30%、日経34%、朝日28%）するなど、党内からの支持も得られなくなった末の退陣となりました。菅政治とは一体何だったのか？

その本質が露呈されたのは、政権発足直後に起こった日本学術会議における会員候補六人の「任命拒否問題」です。政府に批判的な学者をすべて排除し、その理由をまともに説明することもしない、敵と味方を峻別し、人事権を振りかざして政権に従わせる。質問には正面から答えず、説明責任を軽んじ、国会論戦から逃避することが、菅政権の体質であったと言えます。

9月29日には、自民党の新総裁が選出され、その後、第百代内閣総理大臣を指名する臨時国会が召集される見通しです。その場合、新首相が臨む衆議院議員選挙（総選挙）は、「任期満了」あるいは「衆院解散」による二つのパターンとなりますが、いずれにせよ遅くとも11月内に行われることは間違いありません。

JAMは、先般行われた第23回定期大会でも、私たちがめざす政策実現のため、すべての加盟組織が総力を上げ、「JAM代表・村田きょうこ」（第26回参議院議員選挙・来年7月予定）を国政の場に送ることを全体確認しました。そのためにも、総選挙は、来る参議院議員選挙の「前哨戦」として位置付け、戦いを進めていかなければなりません。

そして、総選挙に勝利し、「村田きょうこ」の必勝へとつなげていきましょう！

書記長 中井 寛哉